

■e-黒板ニュース（第21号）：「ウオー！！ 天気予報みたい！」

本日は東京都武蔵野市の成蹊中学校で、2年生社会の授業を見学させていただきました。e-黒板とe-教科書を活用した実践授業は、既に松山市立味酒小学校などで実現していますが、私にとっては初めての体験でした。たしかに「e-黒板とe-教科書で授業が変わる！」ことを実感しました。印象が鮮明なうちに報告します。

今号の目次：

1. e-黒板&e-教科書を活用した授業実践報告：成蹊中学での社会科の授業

お友達への再配信またはご紹介は、ご自由にどうぞ。また、配信中止のご連絡もお願いします。
会員の皆様からの投稿もお待ちしています。
宛先はいつでも ekokuban@cec.or.jp です。

e-黒板研究会のホームページ
<http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban>
をご参照ください。e-黒板ニュースのバックナンバー等もご覧いただけます。

1. e-黒板&e-教科書を活用した授業実践報告：成蹊中学での社会科の授業

東京駅から中央線快速で30分。吉祥寺駅からバスで約5分。成蹊学園前で降りて、さらにケヤキ並木を見上げながら歩いてさらに5分。閑静な佇まいの武蔵野の森の中に目指す成蹊中学校がありました。
「普通のホームルーム教室の方が本来の趣旨からすればよいのですが、本校のホームルーム教室が大変狭く、今回は空間に余裕のある視聴覚室に致しました。」と事前に案内をいただいていた3階の視聴覚教室Aに着きました。

e-教科書研究会の委員をお願いしている梶野孝先生の授業で、中学2年生の社会科<地理>の時間で、10月21日に届いたばかりのe-黒板（フロント型の電子情報ボード）とe-教科書（教育出版準拠のプロジェクター教材）を活用した公開授業が11：30から始まりました。
生徒達は、座席がいつもと違っていることや、7名の見学者のためか、いきなり大騒ぎ。

○前回授業の内容（配布された資料より抜粋）
ヨーロッパ学習の導入として、主要な国名を、ヨーロッパ白地図付の資料プリントを使用して習得していた。国名習得を前提として、西ヨーロッパと東ヨーロッパとの区分と概念を理解した。

○本時授業の狙い（配布された資料より抜粋）
一年間の世界地理学習はアジア・アフリカの学習が終わり、ちょうど年間の折り返し時期にきている。そこで、再度、教育出版の教科書第一編第二章「世界の構成は・・・」にもどり、「世界にはどれくらいの国があるのだろうか」「成果に国々の面積と人口で比べると」のデジタル化された図版を使い、世界の国のなかでのヨーロッパの国々の位置づけを行う。

○いきなり歓声！
教科書P24の「国連発足時の加盟国」の図を表示し、先生が赤いペンをとってアフリカを丸で囲むと、「ウオー！」「ウオー！」と歓声が一斉に上がった。
「天気予報みたい！」という声も聞かれた。朝のTV番組での天気予報を連想したのに違いない。e-黒板を見る生徒たちの集中力が凄いと感じた。

○国境をなぞる
年代別にヨーロッパの地図を写して、独立国の変化の様子などを、次々と説明する先生。地図に、ペン機能を使って、西ヨーロッパと東ヨーロッパの境目をなぞったり、旧ソ連の国境を書き入れたりするところは、「さすが、e-黒板！」といったところだ。

○「先生、頑張れ！」
先生がペンで書き込もうとして、うまく書けない場面があった。生徒たちから、「先生、頑張れ！」の声がかかった。そして、思い通りに書けた途端、「ウオー！」と、また歓声があがった。

○感想
e-黒板とe-教科書を活用した初めての授業。先生のサービス精神で、e-黒板を使う場面・e-教科書を使う場面を意識されたためか、教材提示型の進捗が大部分であったので、生徒にとっては受身の時間が多かったように感じた。
「50分の授業の中でe-黒板やe-教科書の特徴ある機能を使う場面は、一部であった方がよいのかも知れない」と感じた次第。

eknews021.txt

また、e-黒板とe-教科書の機能の重複（ペン機能等）など、課題も浮き彫りになった。「やっぱり、e-黒板とe-教科書の活用で『未来の教室・未来の授業』が実現する」という思いも強くした。

梶野先生の準備と工夫、そして生徒たちを引き付ける授業に感服しました。そして、このような機会を与えてくださったことに感謝します。ありがとうございました。

「e-黒板ニュース」では、早く伝えることに重点をおいていますので、本質的な部分や分析結果などは、なかなかお伝えできないことをご了承下さい。年度末には、専門家のご意見も入れ、しっかりと評価・分析した形で報告させていただきますので、ご期待下さい。

みなさまからの「電子情報ボードを活用した授業」の予定や、実践報告・実践見学報告等のお知らせ&投稿をお待ちしています。

以上

=====
編集・発行：財団法人コンピュータ教育開発センター 関 幸一、南 仁
e-黒板ニュース メールアドレス： ekokuban@cec.or.jp
e-黒板研究会 ホームページ： <http://www.cec.or.jp/e2a/ekokuban/>
=====